評価のポイント

CL-2.専門的、 倫理的、 法的な実践能力
［94-2］倫理的課題の顕在化と根拠

身の回りの倫理的な場面（倫理課題）を一つとりあげ、倫理原則の言葉や考え方を用いて、説明してください。
＜備考＞
・倫理原則はどのタイプを用いても構いません。
・書き方は自由ですが、「何がよいこと（悪いこと）か」「その理由は何か？」などを意識すると書きやすいかも知れません。
・事例を紹介する場合は簡潔に。
・個人情報保護に留意ください。
・架空の事例でも構いません。
・文字数の目安（約50～300字程度）

＜出題の意図＞

- 身の回りの倫理的場面について、倫理の言葉で考えること
- 看護師同士であれば、充分な言語化ができていなくても感覚的に分かり合えることが多い。しかし、複雑な事例を検討する場合や多職種と議論する場合には、言語化の訓練が必要である。

＜期待・評価の視点＞

取り上げた場面行為が、「患者にとってよい（または悪い）」と言える理由を、倫理原則を用いて説明できること

＜記載例＞

事例：

患者は「トイレで排泄したい」と言うが、歩行がおぼつかないためベッドサイドのポータブルトイレを利用している

説明：

＜自律尊重＞の観点
トイレで排泄したいという本人の意向が実現できていない点が良いとは言えない
＜与益と無危害＞の観点
選択肢①トイレへ行って排泄する／選択肢②ベッドサイドのポータブルトイレで排泄する。この二つを比較した場合、①には自律尊重に加え人間尊重の面からも益（支持する理由）がある。②に支持理由があるとすれば安全性の担保が考えられる（∴安全性を担保しつつトイレで排泄できる方法の検討が必要）
＜正義＞の観点
この患者がトイレで排泄することによる、資源分配等の不公正さは生じない